

7つの重要課題（マテリアリティ）とアクションプラン

MVSS制定に合わせて、多様なステークホルダーとの関係性を重視して長期的な企業価値向上をめざすことをコーポレートサステナビリティビジョンとして明文化しました。2021年、この考え方に基づいてマクセルが取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を新たに定義しました。さらに、2022年には、各マテリアリティのアクションプランを確実に実行するためにKPIを策定しました。今後この重要課題解決に向けて具体的な活動につなげていきます。

2020年7月 MVSSの制定

新たな経営VISION「独自のアナログコア技術で、社員・顧客・社会にとつてのMaximum Excellenceを創造する」に向けてマクセルグループならではの社会課題解決に取り組みます。

2020年8月 コーポレートサステナビリティビジョンの策定

多様なステークホルダーとの関係性を重視して長期的な企業価値向上と継続的な社会、環境、経済価値創出を明文化しました。

2021年8月 マテリアリティの特定

VISIONを実現していくため、マクセルが注力すべき重要課題を特定しました。



マテリアリティ	アクションプラン
独創技術による イノベーション創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな価値を生み出す独創技術の進化 ● 効率的なR&Dのためのマーケティングの強化 ● 新事業を生み出すためのパートナーシップの強化
成長事業を通じた 社会課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ● 5G/IoT関連ビジネスを通じた、高度情報社会への貢献 ● ヘルスケア関連ビジネスを通じた、先進医療や健康分野での貢献 ● モビリティ関連ビジネスを通じた、高信頼性センシングによる安心・安全な社会への貢献
価値を生み出す 人・組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 人を活かすマネジメントの強化（人財戦略構築、適材適所・タレントマネジメントの推進） ● 0から1をつくる、プロアクティブな人財を創出する人財育成・評価の仕組みの構築 ● ダイバーシティ&インクルージョンの推進（多様な人財活用と異なる価値観の受容） ● 業務プロセス標準化による生産性向上と技能継承の推進
顧客価値の最大化	<ul style="list-style-type: none"> ● 顧客課題の先にある社会課題を解決するモノづくりへの変革 ● 正道に基づいた品質と製品安全を最優先する仕組みの構築 ● マクセルブランドのコアとなる製品・サービスの価値向上
環境活動による 経済価値の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境技術・環境配慮型製品の強化 ● 省資源・省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入促進
事業ポートフォリオ 経営の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 市場成長・事業収益の2軸（ABC-XYZ管理）による、継続的な事業ポートフォリオ改善 ● 市場の変化を先取りするポートフォリオ戦略の実行 ● グローバル生産拠点の効率化の推進
グループ ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ経営における実効的なガバナンスの構築（マネジメントの深化） ● グループシナジーを最大化するガバナンスの実践（技術、情報、マーケティング）

2022年8月 マテリアリティのKPIを特定

マクセルが注力すべき重要課題のアクションプランに対して確実に実行していくためのKPIを設定しました。

KPIについては本誌の各章扉に掲載しており、今後はその進捗を報告していきます。
7つのマテリアリティの価値創造における役割 → P.11「アナログコア技術で価値を創り出すプロセス」参照